

(社) 埼玉県放射線技師会

第五地区 医用画像展 報告

10月21日(日) すがすがしい秋空にも恵まれ、第33回越谷市民祭りが開催された。(社)埼玉県放射線技師会第五地区では、公益事業の一環として越谷市民祭りにあわせ市役所内のブースをお借りして、今年で2回目の参加となる医用画像展を行った。

例年、約20万人の人出でにぎわう越谷市民祭りであるが、今年も開始早々からたくさんの人で賑わいを見せた。



・たくさんの模擬店や市民祭りならではのさまざまなイベント・展示で来場者の関心を誘っていた。

・交通安全パレードでは、自治体や各種団体がそれぞれの思考を凝らした出で立ちで練り歩いた。



・ 埼玉県放射線技師会の磯田副会長にも応援に来ていただき、明るいムードの中で楽しく進化した。



・ 来場者の中には、長時間にわたり熱心に質問や相談をされる方も少なくなかった。



・ 管理士・機器管理士部会からは、被ばく相談員として、今年も丸山記念総合病院の芦葉さんにご活躍いただいた。



(株)アミンからは、井上氏に3Dワークステーションのデモンストレーションをお願いし、参加者の関心と呼んだ。MDC Tの登場で3D画像もテレビの情報番組で取り上げられる昨今、参加者の認知度もかなり高いものと実感した。



今年で、2回目となる第5地区の医用画像展だったが、来場者の関心の高さに改めて考えさせられた。病院ではちょっと出来ない和やかな会話の中で、検査の不安や聞きたくても聞けない患者の心理など、生の声が聞けたことは、貴重な体験であった。この体験を仕事に生かし、スキルを高めていきたい。

第五地区理事 中村 正之